

- 記者発表資料 -

**潜水作業の安全性向上に向けた  
共同研究協定の締結について**  
— 京浜港ドックを活用した共同研究を開始 —

関東地方整備局では、船舶の大型化に対応した大水深岸壁や高潮・高波対策としての護岸・防波堤等の港湾施設を整備しています。

これらの整備にあたっては、潜水士による潜水作業や検査・確認が欠かせません。海水の透明度が高い外洋とは異なり、湾内では海底の泥や海中に漂う藻等による濁りで視界が悪いため、潜水作業は容易ではありません。また、深い海底における潜水作業では、水圧が高いことから高度な安全確保が求められています。

これら潜水作業を安全かつ効率的に進めていくためには、潜水士の技術レベル向上とともに、新たな潜水技術の研究開発が必要不可欠です。

そのため、関東地方整備局が所有する京浜港ドックを活用することで、潜水作業の安全性向上に向けた研究を官民共同で進めることとし、この度、一般社団法人日本潜水協会と共同研究協定を9月27日に締結いたしました。

なお、京浜港ドックは、大正15年(1926年)に完成した大型ケーソン築造施設で、現在は試験研究施設として、90年を経過してもなお活用されています。平成29年9月、土木学会選奨土木遺産に認定されました。

**発表記者クラブ**

竹芝記者クラブ、神奈川建設記者会、横浜海事記者クラブ

**お問い合わせ先**

関東地方整備局 港湾空港部

海洋環境・技術課 課長

海洋環境・技術課 課長補佐

係長

たかはし やすひろ

高橋 康弘

くぼ てつや

久保 哲也

すが たかし

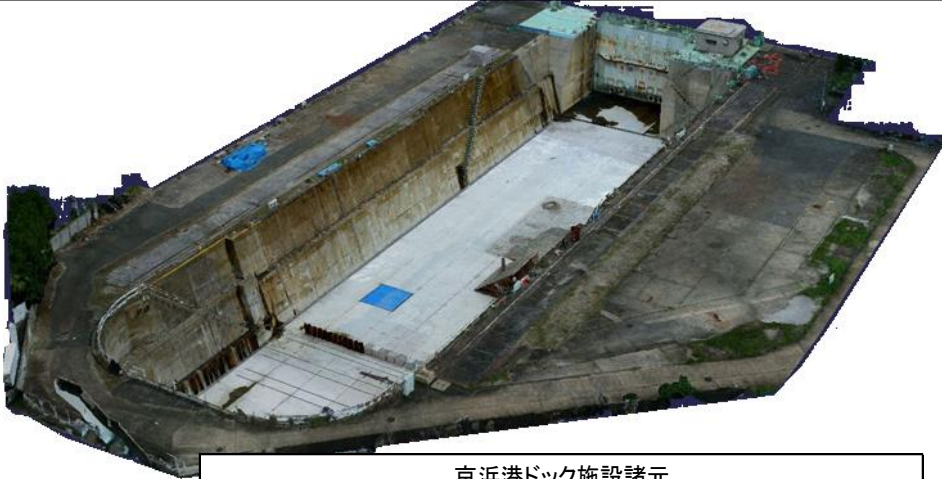
菅 崇

電話 045-211-7420

FAX 045-211-0204

## 京浜港ドックを活用した共同研究の概要について

京浜港ドック(横浜市神奈川区)は、大正15年(1926年)に完成した大型ケーソン築造施設で、現在は試験研究施設として、90年を経過してもなお活用されている。平成29年9月、土木学会選奨土木遺産に認定された。



ドライ状態



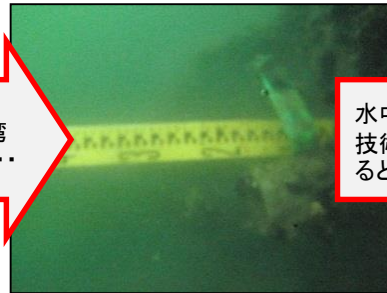
注水状態

京浜港ドック施設諸元				
長さ(m)	下幅(m)	ゲート幅(m)	深さ(m)	容量(m <sup>3</sup> )
109.0	25.5	18.0	8.5	26,800

### 1. 東京湾の海水をドック内に注水し、濁った海水中においても潜水士の安全を確保するため、水中可視化技術を活用した潜水作業の共同研究を行う。

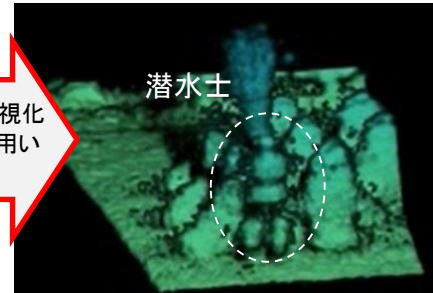


透明度の高い海域では、潜水士が目視により直接周囲の安全確認が可能。



東京湾では...

東京湾では富栄養化などによる濁りなどで視界が悪く、目視による潜水作業が容易ではない。



潜水士

水中可視化技術を用いると...

水中可視化技術の活用により、濁った海水中においても、陸上から潜水士の水中作業状況や水中の地形・構造物等をリアルタイムに確認し、潜水士にフィードバックすることで、作業の安全性を確保することが可能。

### 2. 潮流や障害物が無いなど安全性が確保できるドックを高度潜水実証フィールドとして活用し、混合ガス潜水作業といった大水深で使用される設備・装備等の潜水士の技術レベル向上を図る共同研究を行う。

ガスコントロール  
パネル

再圧室